まちづくり・生涯学習情報誌

らしっく

自分らしく、粋なくらし

Vol.42
緑陰号
2015.7

りょくいん／夏の日差しのもと木の青葉が茂ってできるこかげ。日差しが強くなると緑陰の涼しさは何よりである。

CLOSE UP

私たちにできる防災・減災を考える

HUG-YOU
学生ならではの行動力で、広島の防災・減災に取り組む

NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぽん
積み重ねた実績をベースに 新たな取り組みに挑戦

若者活動サポートセンターあおぞら
地域住民と若い世代をつなぎ まちの活性化を目指す

連載

▶Hm²助成団体決定! ▶Hm²助成支援団体のご紹介 ▶人材バンク 名人 宝人 達人 ▶ようこそ!公民館へ～佐伯区内公民館～
▶らしっくレポート・「想い」をカタチに! まちづくり学校 ▶らしっくコラム・「自然と共生するとは」～ヤノマミ族の知恵に学ぶこと
▶情報の森 ▶プラザ通信

特集1

学生ならではの行動力で、広島の防災・減災に取り組む

広島市豪雨災害でのボランティアの様子

CLOSE UP

私たちにできる防災・減災を考える

平成26年8月20日、広島市を襲った豪雨災害からもうすぐ一年。
防災・減災・復興にさまざまなかたちで取り組んでいる団体を紹介します。

HUG-YOU（ハグ ユー）

https://www.facebook.com/pages/HUG-YOU/178430945648484

東日本大震災をきっかけに生まれた大学間の交流

平成23年3月11日に発生した東日本大震災をきっかけに、「今回の震災から学び、次に備える体制を地域で作ること」を目的に翌平成24年12月に結成されたのが、防災・減災を考える学生ボランティア団体「HUG-YOU」です。広島大学、広島修道大学、安田女子大学、広島国際大学、広島文教女子大学、県立広島大学の6つの大学の学生23人で構成され、現在代表を務めているのは安田女子大学の高橋（たかはし）ひかりさんです。

「もともと、東日本大震災発生後に、大学ごとにそれぞれの学生がボランティア活動を行っていました。その中で、学生同士の交流が生まれ、情報交換・共有を行い、広島でももっと私たちの世代が防災・減災の大切さを学ぶ機会があれば…との意見が生まれて、団体の結成に至りました」と高橋さんは語ってくれました。

地道な活動と地域との連携で意識を高める

最初は5人前後の学生の交流から生まれた団体は、平成24年12月に10人ほどのメンバーで「HUG-YOU」として正式に発足。現在は、月1回のミーティングを開き、各大学のメンバーによる活動報告、「HUG-YOU」として実施する防災・減災に関する企画の進捗状況の確認、防災に関する勉強会などを行っています。

「『HUG-YOU』は、大学の垣根を越えて学生、地域住民が連携し防災・減災について共に考え、現実的に行動していくことを目的にしています。その一環として平成25年からは広島市安佐南区大町学区町内会と連携。町内会で行われる防災訓練に、運営側として協力参加し、地域住民の防災意識の向上を図っています。また年に1回、サバイバル合宿として、日常生活を過ごしにくい場所で、非常時における調理実習や防災すごろくクイズによる知識の習得を行っています。さらに平成26年8月20日に発生した広島市豪雨災害から半年がたった平成27年2月には、未来を見据えたイベント「忘れない！未来に笑顔をつなげよう！！復興すまいるフェスタ」を、各種団体と共同で開催。防災についてのシンポジウムや防災展示コーナーの運営などを行い、延べ1,000人近くの人々にご来場いただきました」。

▲ 各大学による活動報告

今こそ次世代に伝える取り組みを

今後は、地域の子ども向けの防災講座を企画したり、広島市安佐北区でのまち歩き研修会を予定するなど、より地域に密着した取り組みを展開していくことで、防災・減災について考えていくことを視野に入れているそうです。

「“喉元過ぎれば熱さ忘れる”ということわざもあるように、災害が起きた時にはボランティア活動が注目されて多くの人が集まってきますが、時間がたてば、その熱も冷めて関わる人も減っていきます。私たちは、東日本大震災をきっかけに集まり、昨年の広島市豪雨災害後は、それぞれのスタンスでボランティア活動に取り組みました。これからはもっと私たちの活動キーワードである“防災・減災”について取り組み、地域と連携していきたいと考えています。加えて次世代を担う学生を育てていきたいと思います」と高橋さんは語ってくれました。

学生ならではの素早い行動力と計り知れないパワーで、地域の人々を笑顔にし、前を向いて突き進んでいく皆さんの姿に、無限の力ともいえる若く力強い活動が広島にも根付き始めたことを感じました。

▲「HUG-YOU」のメンバーの皆さん

らしっく
自分らしく、粋なくらし
Vol.42
緑陰号
2015.7

contents

01 特集 私たちにできる防災・減災を考える
▶HUG-YOU
▶NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぽん
▶若者活動サポートセンターあおぞら
05 Hm²助成団体決定！
06 Hm²助成支援団体のご紹介
▶ひろしま市民活動ネットワーク　HEART to HEART
▶演劇集団ふらっと
07 人材バンク　名人 宝人 達人
▶箏・サックスアンサンブル香音ひろしま
▶ひろしま健康づくりチーム90
09 ようこそ！公民館へ・佐伯区内公民館
10 らしっくレポート
▶「想い」をカタチに！まちづくり学校
らしっくコラム
▶「自然と共生するとは」～ヤノマミ族の知恵に学ぶこと
広島経済大学 経済学部 メディアビジネス学科
教授・メディアビジネス学科主任
松井 一洋 教授
11 情報の森
15 プラザ通信

【表紙写真】広島市豪雨災害でのボランティアの様子

積み重ねた実績をベースに　新たな取り組みに挑戦

NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぽん

http://www.hullpong.jp

人と人、組織をつなぐ役割
ボランティアコーディネーター

昭和56年7月に、障害を持つ子どもたちのいきいきとした生活と社会参加を支援したいという強い思いから結成された「コミュニティリーダーひゅーるぽん」。その後、平成7年1月17日に起きた阪神・淡路大震災直後に、現地でのボランティア活動に入ったことをきっかけに、災害・防災ボランティア活動にも積極的に取り組むようになりました。

「阪神・淡路大震災から4年後の平成11年6月29日には、広島市佐伯区などで集中豪雨による被害が発生。その時、土砂撤去のボランティア活動に取り組みながら、活動希望者と現地のニーズを調整するボランティアコーディネーターの必要性を感じました。その後、専門家を招いて定期的にボランティアコーディネーター養成講座を開いていましたが、災害が発生しなくなると、受講者も減少していきました。その後平成13年9月にNPO法人の資格を取得した後、平成23年3月11日に起きた東日本大震災で、ボランティアコーディネーターが再び注目を集めるようになり、今度は災害時のコーディネートをテーマにした講座を開設。いつ、何が起きても、対応できるような仕組み作りに取り組みました」と理事長の川口隆司（かわぐちたかし）さんは語ってくれました。

人々のボランタリーな活動を支援すると同時に、実際の活動時にはボランティアに駆け付けた人々の力を発揮できるように、人と人あるいは組織をつないだり、組織内の調整を行うスタッフのことを指すボランティアコーディネーター。一般的な認知度はまだ高いとはいえず、そのネーミングについて聞かれることも度々あるそうです。

▲ ボランティアコーディネーター養成講座グループワークの様子

▲ ボランティアコーディネーター養成講座の様子

地域力と惜しみない努力で災害に立ち向かう

「NPO法人コミュニティリーダーひゅーるぽん」は、平成26年8月20日に起きた広島市豪雨災害時には、22団体によって構成されている「広島市災害ボランティア活動連絡調整会議」のメンバーとして活動。事務所のある広島市安佐南区を中心にボランティア活動に取り組みました。

「今回の災害では、被災地から刻々とニーズが寄せられると同時に、全国規模で多くの人々からボランティア活動に関する問い合わせがありました。その中で実際に経験したこと、感じたことを踏まえ、12月にボランティアコーディネーター養成講座の応用編を開きました。養成講座には基礎編もありますが、今回の応用編には男女合わせて25人が参加。大学生、社会人など職種も様々で、関心度も非常に高いことを実感しました。講座では、外部から専門家を招いて講義を行ったほか、今回の災害を振り返りながら、その経験や工夫を共有しました。参加された方が皆、熱心に話を聞いていた姿が印象に残っています」。

今後、自然を相手にした災害が発生した時に、どのように対応していくのか。そのキーワードとして、川口さんは「地域力」を挙げます。「行政を中心に、民間、NPO等さまざまな団体が協力して防災・減災に取り組む仕組みは構築されつつあります。これに加えるならば、地域の人々が結びつく地域力ではないでしょうか。ここにボランティアコーディネーターの姿がもっと見える形にして、一緒に参加できる仕組みを作れば、災害発生時により的確な活動ができると考えます」。

予期できない自然災害に対する新しい仕組み作りの取り組みに、大きな可能性を感じました。

▲ 広島市豪雨災害での
ボランティア活動の様子（八木3丁目）

地域住民と若い世代をつなぎ　まちの活性化を目指す

若者活動サポートセンターあおぞら

https://www.facebook.com/aozorawakamono

復興を支え、安全な暮らしを続ける
世代を超える中間支援

平成26年8月20日に起きた広島市豪雨災害を機に、広島市安佐北区の被災地にボランティア活動で入った学生たちが集える場所を作ろうと、発災時にボランティアセンターの運営に携わった地域住民により結成されたのが「若者活動サポートセンターあおぞら」です。

団体の共同代表を務めるのは、もともと安佐北区可部地区を中心に、地域活動に取り組んでいた秦野英子（はたのえいこ）さんと、子育て支援活動に取り組んでいた増谷郁子（ますたにいくこ）さん。旧知の二人は、「災害ボランティアセンター」「復興連携センターすまいる」で自分たちの強みを活かし地域復興のための活動を行っていく中で、中間支援活動の必要性を痛感。復興活動を通して知り合った学生たちのサポートをするために、各方面からの協力を仰いだ後、平成27年3月に「若者活動サポートセンターあおぞら」を結成。安佐北区可部四丁目のビルの一角に活動の拠点となる施設を作り、同区内へボランティア活動に訪れた学生たちと共に活動をスタートしました。

「災害後、さまざまな団体によってボランティア活動が行われたこともあり、被災地は少しずつ落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、時間の経過とともに住民からはさまざまなニーズが求められてきました。それらを踏まえて私たちは、高齢化率の高い安佐北区の復興を支え、災害に備えて、住民それぞれが安心して暮らしを続けていくためには、若い世代（学生）の力が必要不可欠な事を改めて感じました。もっと若い人たちに、安佐北区に愛着を持ってもらうことで、まちは盛り上がり地域に住む世代を超えた人々の交流も深まっていく。その点に注目した私たちは、地域住民と若い世代をつなぐ役割「中間支援活動」を果たすことができれば、と考えました」と秦野さん、増谷さんは語ります。

若い世代の自主性を尊重
互いに支え合い、地域力の強化へ

今後は、連携を深めている複数の学生ボランティア団体と共に、ここを拠点にして、広島県内の大学生たちによる災害の記録集作りや防災・減災の出前授業、里山の整備にも取り組んでいく事を計画しているそうです。

「災害と日常は隣り合わせ。非日常と日常を上手くつなげていくことで、地域力の強化にも繋がっていくと信じています。安佐北区が持つ豊かな自然や歴史、伝統を継承しながら、地域住民と若い世代が互いに助け合い支え合うことで、より住みやすいまちになっていくことを願っています。そして若い世代の自主性を尊重し活動することで、これからどんな安佐北区になっていくのかわくわくしています」。秦野さん、増谷さんのお二人は今後の展開について、大きな期待を抱いています。世代を超えた中間支援活動を通して、地域ファンを形成するチャレンジに、大きな注目が集まりそうです。

▲ 左から秦野英子さん、増谷郁子さん

◀▲ 今後の復興支援方法について話し合う学生たち